

FIXTURE FOR RISING FLOOR CABLE

Publication number: JP60055814 (A)

Publication date: 1985-04-01

Inventor(s): TAKASAKI SHIYUUICHI

Applicant(s): MATSUSHITA ELECTRIC WORKS LTD

Classification:

- international: *F16B9/00; H02G3/30; F16B9/00; H02G3/30*; (IPC1-7): F16B9/00; H02G3/26

- European:

Application number: JP19830160957 19830831

Priority number(s): JP19830160957 19830831

Abstract not available for **JP 60055814 (A)**

Data supplied from the **esp@cenet** database — Worldwide

Family list

1 application(s) for: **JP60055814 (A)**

1 FIXTURE FOR RISING FLOOR CABLE

Inventor: TAKASAKI SHIYUUICHI

Applicant: MATSUSHITA ELECTRIC WORKS
LTD

EC:

IPC: *F16B9/00; H02G3/30; F16B9/00; (+3)*

Publication info: **JP60055814 (A)** — 1985-04-01

Data supplied from the **esp@cenet** database — Worldwide

⑨ 日本国特許庁(JP)

⑩ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A) 昭60-55814

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)4月1日

H 02 G 3/26
// F 16 B 9/00

7303-5E
6673-3J

審査請求 有 発明の数 1 (全5頁)

⑮ 発明の名称 フロアケーブル用立ち上げ固定具

⑯ 特 願 昭58-160957

⑰ 出 願 昭58(1983)8月31日

⑱ 発 明 者 高 崎 修 一 門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内

⑲ 出 願 人 松下電工株式会社 門真市大字門真1048番地

⑳ 代 理 人 弁理士 松本 武彦

明 細 書

〔背景技術〕

1. 発明の名称

フロアケーブル用立ち上げ固定具

2. 特許請求の範囲

(1) フロアケーブルを床に押さえ付ける押さえ付け面を有すると共にその左右少なくとも一側に床面に固定される固定面を有するほぼ平板状のベースAと、床から立ち上がるフロアケーブルを受ける受面を側面に有すると共にその下部に床面に固定される固定面を有し、ほぼL字形板状のベースBとの組合せからなるフロアケーブル用立ち上げ固定具。

(2) 固定面が粘着剤を塗布されている特許請求の範囲第1項記載のフロアケーブル用立ち上げ固定具。

3. 発明の詳細な説明

(技術分野)

この発明は、フロアケーブルの立ち上げ配線などの固定に使用されるフロアケーブル用立ち上げ固定具に関する。

従来、フロアケーブルの立ち上げ固定具として第1図および第2図の如きものが使用されている。このフロアケーブル用立ち上げ固定具1は、金属性またはプラスチック製などの箱状カバー2を有し、その下端面3を粘着剤4で床面に固定している。フロアケーブル用立ち上げ固定具1は、第3図にみるように切り込みを付けたカーペット5の中に設置されている。

フロアケーブル6は、第3図の如く床7上をはわけて箱状カバー2の切り込み凹部8より箱状カバー2内へ通し、ピン9などを介して約180°で折り返し、カバー上面の穴部10より上方へ立ち上げている。フロアケーブル6の立ち上げ部11は、機械的外力から保護するため、第3図の如く軟らかいビニルチューブ12で被覆している。立ち上げ部11は、通常、机や家具の一部に粘着テープなどを介して固定している。

しかし、このようなフロアケーブル用立ち上げ固定具1においては、フロアケーブル6をピン9

を介して折り返すために、第4図にみるようにケーブル6の反力によって立ち上げ固定具1が床7から剝離して浮き上がることがあつた。また、第5図にみるように、机13などに固定した立ち上げ部11には、机13の下端14とフロアケーブル用立ち上げ固定具1との間において15~20cm程度の無支持部分ができるが、清掃時に掃除機15がこの部分に接触すると、ビニルチューブ内のケーブルに矢印方向の外力が加わり、ケーブルが断線するという恐れもあつた。

(発明の目的)

この発明は、このような事情に鑑みなされたもので、フロアケーブルの立ち上げ部を外力から保護し、立ち上げ固定具がフロアから浮き上がることをしないフロアケーブル用立ち上げ固定具を提供することを目的とする。

(発明の開示)

発明者は、上記目的を達成するために鋭意検討した。その結果、この発明を完成するに至つた。

この発明は、フロアケーブルを床に押さえ付け

る押さえ付け面を有すると共にその左右少なくとも一側に床面に固定される固定面を有するほぼ平板状のベースAと、床から立ち上がるフロアケーブルを受ける受面を側面に有すると共にその下部に床面に固定される固定面を有し、ほぼL字形板状のベースBとの組合せからなるフロアケーブル用立ち上げ固定具をその要旨としている。以下に、これを実施例に基づく図面に基いて詳細に説明する。

第6図は、この発明にかかるフロアケーブル用立ち上げ固定具をあらわす斜視図である。図にみるように、フロアケーブル用立ち上げ固定具18は、フロアケーブルを床面に固定するほぼ平板状のベースAと、フロアケーブルの立ち上げ部を支持するほぼL字形板状のベースBとの組合わせからなつている。ベースAは、中央部にフロアケーブルを床に押さえ付ける押さえ付け面19を有し、その左右に床面に固定する固定面20a、20bを備えている。固定面20a、20bはいずれか一方のみであつてもよい。ベースBは、床から

立ち上がるフロアケーブルを受ける受面21を側面に有し、その下部に床面に接合固定する固定面22を備えている。なお、ベースAの固定面20a、20bおよびベースBの固定面22は、通常、粘着剤が塗布されるか、または両面粘着テープを用いるなどし接合固定されるが、その固定方法は、これらに限定されるものではなく、この他、例えば、ビスなどを介して床部に固定されてもよい。

なお、ベースAおよびベースBの材料としては、剛性のプラスチック、金属、木などを使用することができる。

第7図は、この発明にかかるフロアケーブル用立ち上げ固定具を用いてフロアケーブルの立ち上げ部を床面に固定した状態をあらわす斜視図、第8図は同状態をあらわす側断面図である。これらの図にみるように、フロアケーブル6は、ケーブルの立ち上げ部11を機械的損傷から保護するために、軟らかい絶縁製ビニルチューブ23で被覆されている。すなわち、ビニルチューブ23は、

ケーブル6の立ち上げ部11全部を被覆保護するとともに、その一部(二分割された上半分)23aが床面を這うケーブル6とベースAの押さえ付け面19の間に介在してケーブル6のその部分を被覆保護している。図面にみるように、ビニルチューブ23は、フロアケーブルの立ち上げ部11とともにベースBのケーブル受け面21をも被覆している。つまり、ケーブル立ち上げ部11は、ビニルチューブ23内においてベースBの受面21に当接している。この結果、受面21がケーブル6を受けて支持し、立ち上げ部11のケーブルの腰を保護するようになるので、立ち上げ部11に外力が加わつても、ケーブル6が断線することがなくなるのである。ビニルチューブ23の床7上に固定される部分は、下半分が切除されて薄くなつている。このため、固定も容易となり、フロアベースが高くならない。

フロアケーブル用立ち上げ固定具の取り付けは、例えば次のようにして行なわれる。すなわち、フロアケーブル6の立ち上げ部11をビニルチュ

ープ23で被覆する。このビニルチューブの下部は片側が切除されている。次に、ビニルチューブ23内にベースBの受面21を押し込み、ケーブル6に沿わせる。その後、ビニルチューブ23の半分片23aを折り曲げ、床面上のケーブルに沿わせて重ねる。その上にベースAの押さえ付け面19を股がらせて床7上にベースAの固定面20a, 20bを固定する。さらに、ベースBの固定面22も同様に床7上に固定する。この後は、予めフロアケーブル用立ち上げ固定具18の寸法に合わせて切り口を設けるか、または端縁合わせをしたカーベツト5を敷設することにより完了する。カーベツトは、固定面を被覆するので、フロアケーブル用立ち上げ固定具は、一層固定が確実となり、浮き上がることがない。

なお、このような取り付け手順は一例に過ぎず、これに限定されるものではない。

(発明の効果)

この発明にかかるフロアケーブル用立ち上げ固定具は、フロアケーブルを床に押さえ付ける押さ

え付け面を有すると共にその左右少なくとも一側に床面に固定する固定面を有するほぼ平板上のベースAと、床から立ち上がるフロアケーブルを受ける受面を側面に有すると共にその下部に床面に固定する固定面を有するほぼL字形板状のベースBとの組合わせからなる構成を有している。そのため、床から立ち上がるケーブルは、受け面によつて支持されるので外力から保護され、ケーブルが断線するようなことがない。ケーブルはベースAによつて床面に固定され、180°屈曲することがないので、固定具に反力を加えることがない。このようにして、固定面が床面に確実に固定されるので、掃除機などの接触により外力が加わっても固定具が床面から浮き上がったたりケーブルが断線したりすることがないのである。

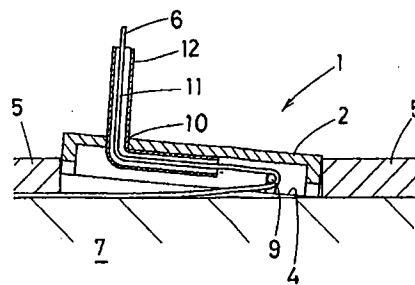
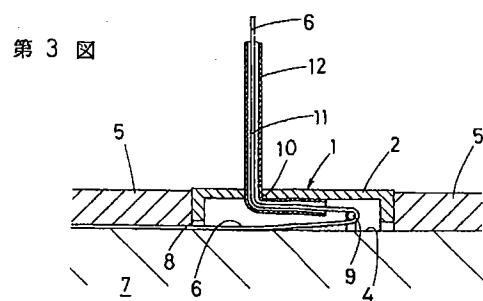
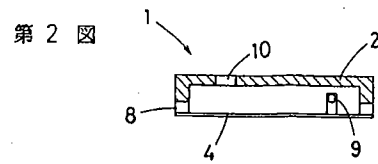
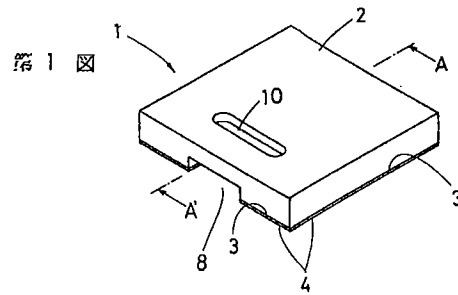
4. 図面の簡単な説明

第1図は従来のフロアケーブル用立ち上げ固定具をあらわす斜視図、第2図は第1図のA-A'線に沿う側断面図、第3図は従来のフロアケーブル用立ち上げ固定具の使用状態をあらわす側断面

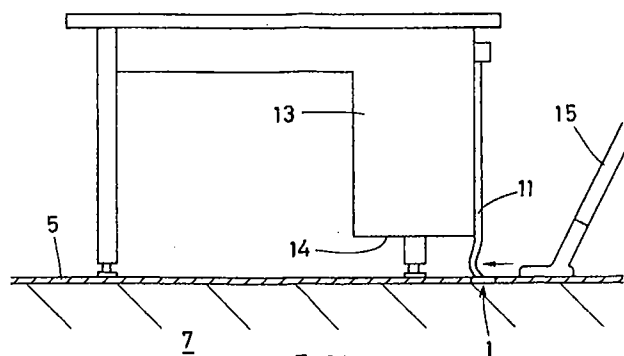
図、第4図は従来のフロアケーブル用立ち上げ固定具が使用時に床面より浮き上がった状態をあらわす側断面図、第5図は従来のフロアケーブル用立ち上げ固定具を机に接続した状態をあらわす側断面図、第6図はこの発明にかかるフロアケーブル用立ち上げ固定具をあらわす斜視図、第7図はこの発明にかかるフロアケーブル用立ち上げ固定具を用いてフロアケーブルの立ち上げ部を床面に固定した状態をあらわす斜視図、第8図は第7図の固定した状態をあらわす側断面図である。

18…フロアケーブル用立ち上げ固定具 5…カーベツト 6…フロアケーブル 11…フロアケーブルの立ち上げ部 23…ビニルチューブ 19…押さえ付け面 20a, 20b, 22…固定面 21…受面

代理人 弁理士 松 本 武 彦



第 4 図



第 5 図

